

# 長崎の国際電信の歴史

海底線の歴史とともに

株式会社 長崎再興  
Nagasaki Saiko Co.,Ltd.

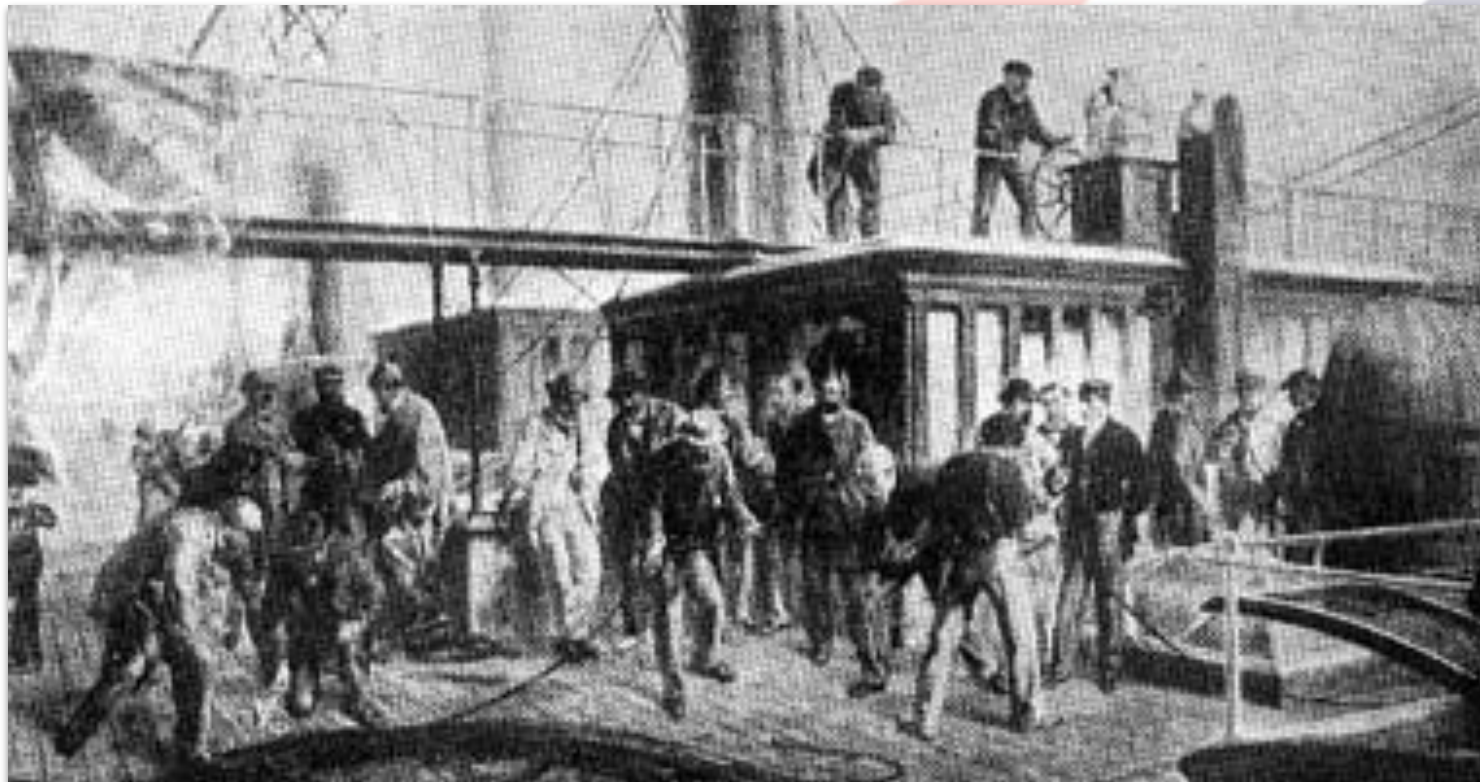
<https://315.nagasaki.jp/>



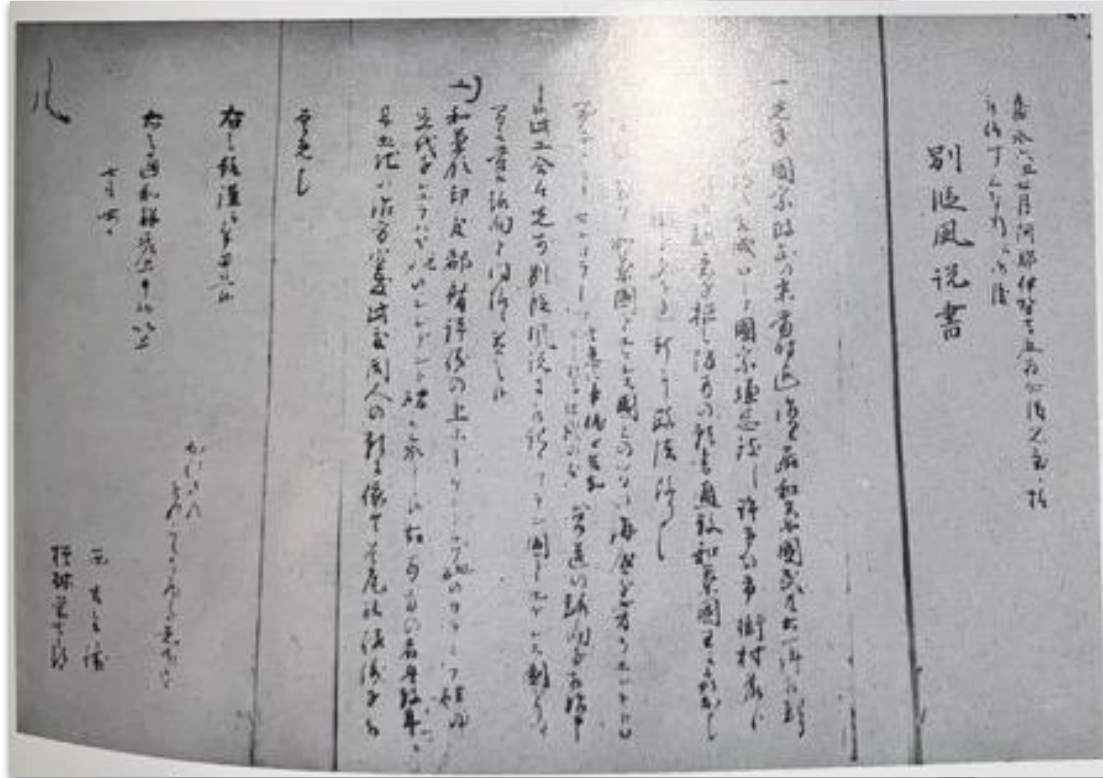
The image features a white background with a vertical bar on the left side, divided into four colored segments: red at the top, blue, yellow, and green at the bottom. On the right side, there are several abstract, overlapping shapes in light red and light purple. The main text is centered in the middle of the page.

# 国際電信の始まり

# 1852年（嘉永4年）ドーバー海峡横断海底ケーブル敷設



# 1853年（嘉永6年）7月の和蘭風説書



# 1855 (安政2年) 10月 長崎西役所に海軍伝習所創設



# 国際電信発祥の地跡





# 日本の国際海底ケーブルのはじまり

# 1870年（明治3年）9月20日

## 日本・デンマーク間の約定制定

### 大北電信会社への免許状内容の一部

- ・ 長崎及び横浜に海底ケーブルの陸揚権を認める
- ・ 九州四国の南方回り海底線により長崎及び横浜を接続することを許す  
（ただし、東京－長崎間の電信線を完成させた場合には見合わす）

### 大北電信会社について

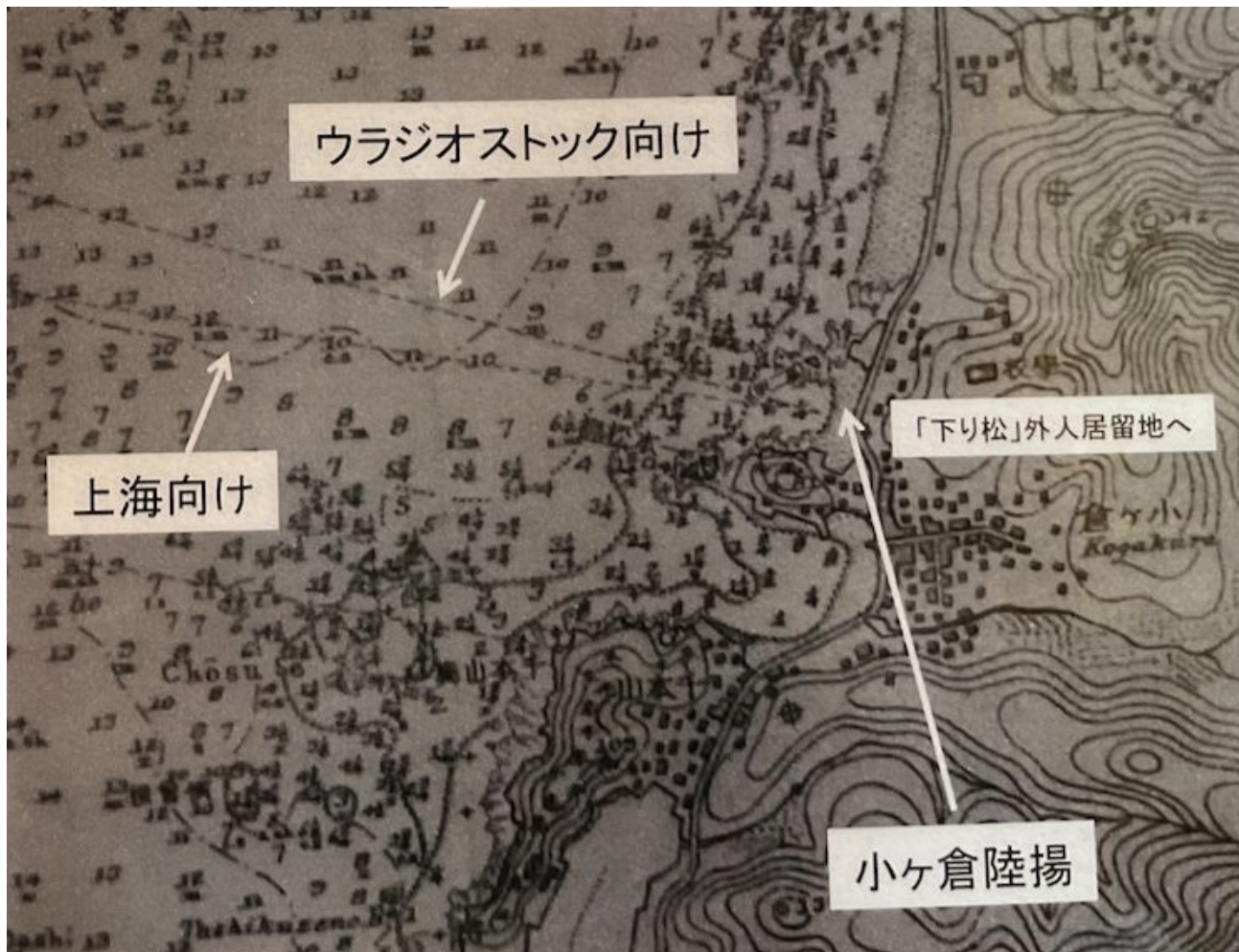
現在のGN Store Nord A/Sにつながる。英語名ではGreat Northern Telegraph Company。ロシア経由での通信網を広げており、ロシアの目論見の背景もあり、日本経由での中国までの進出を検討していた。現在のGNグループは補聴器やヘッドセットなどのブランドを展開している。日本でも有名なブランドはJabra。



# 1871年（明治4年）6月

## 大北電信会社が敷設した長崎～上海線による海外通信がはじまる







<https://goo.gl/maps/v7k7N6JE2PcahHm89>

The background features a vertical bar on the left side with four colored segments: red at the top, blue, yellow, and green at the bottom. On the right side, there are large, semi-transparent geometric shapes: a light red triangle pointing downwards and a light purple triangle pointing upwards, both overlapping each other and the white background.

# 自力での海底線ケーブル敷設

# 1872年（明治5年）

東京～長崎線建設の際、赤間関（関門）海峡に海底ケーブルが敷設された

このとき赤間関海峡を横断するため下記の3方式を実施した

- (1) 海底線布設
- (2) 架空電信線の建設
- (3) 小倉電信局を開設し、上記両線故障の場合は下関～小倉局間は郵便船をもって電報を通送すること

# 1873年（明治6年）2月

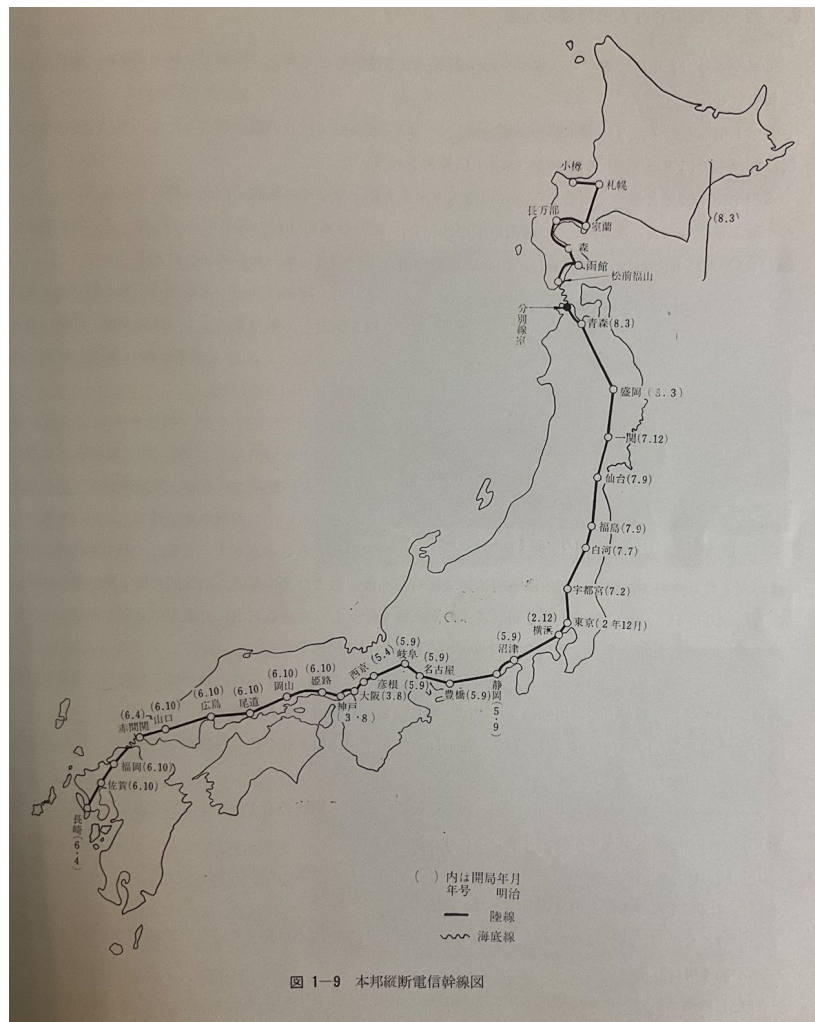
東京一長崎間に電信線開通

熊本県の神風連の乱、西南の役などの情報は、逐一東京に打電されていた。



# 1875年（明治8年）

長崎から小樽までの国内通信線が繋がる



本資料の主な出典元：海底線百年の歩み  
S46/3/20発行  
日本電信電話公社 海底線施設事務所 編集  
社団法人電気通信協会 発行